

コード	503020202
記入日	H22.6.10

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川義男
担当者	吉村貴弘

事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	スポーツ振興補助事業
----------	------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	503	施策名称	スポーツ・レクリエーション	項コード	6
基本事業コード	50302	基本事業名称	生涯スポーツの振興とスポーツによる交流	目コード	1
事務事業コード	5030202	事務事業名称	競技スポーツの振興事業	細目コード	
関連計画			法令・条例規則等	新上五島町少年スポーツ大会出場補助金交付要綱	

計画(PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標				
(対象1)	少年スポーツ団体加入者	(対象指標1)	818人			
(対象2)	小学生	(対象指標2)	1,315人			
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	県大会に地区予選会で出場権を得た15チームと準じる10チームの計25チームに750,000円を交付した。	*****	*****	*****	補助金交付件数25件÷補助金申請件数25件	*****
		①	補助金交付件数	25件	100%	
		(達成率分析)	25団体から補助金の申請があり、内容を審査して交付した。			
		*****	*****	*****	*****	*****
		②				
		(達成率分析)				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
	上五島地区少年スポーツ大会等で出場権を得たチームが県大会以上に出場する時の旅費の一部を助成し、競技力向上を目指す。	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		*****	*****	*****	参加者数374人÷該当者数374人	*****
		①	参加者数	374人	100%	平成21年度
		(達成率分析)	県大会出場団体25団体74人から補助申請があり、内容を審査して、予算の範囲内で全団体に助成した。			
		*****	*****	*****	入賞団体数0団体÷目標入賞団体数1団体	*****
		②	入賞団体数	0団体	0%	平成21年度
		(達成率分析)	個人・団体種目を含め、1団体(人)に入賞者を目指しているが、今回この補助制度を利用しての大会出場では入賞者ができなかったが、県予選会を通過して、小学生の陸上競技でこの制度で全国大会に出場した。			

実施(DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 件	67	67	43	25	25					
	②										
成果指標	① 人	995	995	621	374	374					
	② 団体	1	1	0	1	0					
総事業費C(A+B)		千円	10,997	10,997	7,447	3,550	3,550				
直接事業費A		千円	2,597	2,597	1,847	750	750				
人件費B		千円	8,400	8,400	5,600	2,800	2,800				
内訳	従事職員数	人	1.2	1.2	0.8	0.4	0.4				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源		千円	10,997	10,997	7,447	3,550	3,550				

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	少年スポーツの振興・育成や離島のハンディー克服のためには必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	競技力向上や交通格差の是正は、町として支援する必要がある。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	スポーツ活動を支援するための補助金であり、適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	1団体(人)以上の入賞を目指しているが、今回は入賞できなかった。しかし、県予選会を通過して、この制度を利用して全国大会に1人出場した。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	少年スポーツ支援事業で、指導者・育成組織を充実させて、健全な育成に努める。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	保護者負担が増えることになり、参加者やスポーツ向上に影響がでてる。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由	小学生スポーツクラブ育成事業に重点を置いて、規模を縮小している。(予算配分を減額している)
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	経費削減して、実施した。(18年度150万円→20年度90万円→21年度75万円)
	人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	準備等のための人件費であり削減できない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	補助金条例に沿っており、適正である。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在の事業を基本に内容を吟味する。
		有効性	本事業の規模を縮小して、小学生スポーツクラブ支援事業に重点を移している。
		効率性	本事業の経費は、削減しているが、その分を小学生スポーツクラブの育成事業に移しているため、合計の経費は削減できない。
		課題に向けた改善策	既に、徐々に減額しており、重点はクラブ育成に移っているが、全廃は出来ない。餞別規定程度の制度として維持したい。
	2次評価	妥当性	本土の大会出場は経費負担が大きく、スポーツ振興の面ではマイナスであり、負担軽減も必要であると認めるが、補助の公益性に十分留意すること
有効性		少年スポーツ団体が本土の大会へ出場することが、本町のスポーツ振興の目的ではなく、この補助は特別補助である。地域の少年スポーツクラブへ公平に支援が及ぶよう、なお有効な方向性で検討すること。	
効率性		今後も経費の内容を精査しつつ効率的な執行に努めること。	

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
			事業費を見直して事業を継続					事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。